

拡大医療改革委員会  
産婦人科医療改革公開フォーラム  
2017.4.15.



# わが国の新生児科医 新生児医療の現状

日本周産期・新生児医学会  
理事長 和田和子

# 本日の内容

- 産婦人科と小児科
- 新生児医療提供体制の歴史
- **最大の課題 医師の不足**
- 今後に向けて

# NICU病床整備に必要な新生児医師数の 算定根拠

出生1000人あたり3床のNICUを整備するために必要な医師数

総合周産期母子医療センターに必要な医師数

仮定1: 3次医療圏(人口100万)あたり1箇所整備するとして100ヶ所

仮定2: 専任医師による1人当直 7名/施設

仮定3: 当直1名で管理可能な病床数12床/施設とすると

→1200床、医師700名

地域周産期母子医療センターに必要な医師数(計算例1)

仮定1: 残り1800床をすべて9床のNICUで整備(医療圏のサイズを無視)

仮定2: 小児科学会地域小児科センター病院基準案  
(4名/NICU9+GCU18床)で配置

→1800床、医師800名 →→ 合計1500名

地域周産期母子医療センターに必要な医師数(計算例2)

仮定1: 小児科医療圏396ヶ所(実数)

仮定2: 1ヶ所あたり4名

→1800床、医師1600名 →→ 合計2300名

杉浦による; 藤村班 平成22年

# NICU・GCUに従事する人材の将来需要予測

必要な新生児科医の数の試算 有効回答 107施設

a) 年間超出生体重児 = 3389人  
107施設の超低出生体重児 = 1775人/年  
 $1775/3389 = 52.4$   
全国の52.4%のデータと仮定

b) 22年度の勤務した常勤医師 5.8人  
 $5.8 \times 107 \times 100 / 52.4 = 1184$ 人

c) 23年度に勤務予定の常勤医師5.9人  
 $5.9 \times 107 \times 100 / 52.4 = 1204$ 人

d) 同年の望ましい医師常勤定数7.7人  
 $7.7 \times 107 \times 100 / 52.4 = 1572$ 人

e) 23年度に足りない新生児科医は、

$1572 - 1204 = 368$ 人 1.31倍！

# 全国の総合周産期母子医療センターの NICU勤務医師充足度状況調査結果等

「地域格差是正を通じた周産期医療体制の将来ビジョン実現に向けた先行研究」 研究代表者：田村正徳

26年度と27年度研究成果の一部より抜粋

田村正徳<sup>1</sup>、側島久典<sup>1</sup>、和田和子<sup>2</sup>、楠田 聡<sup>3</sup>、中村友彦<sup>4</sup>、  
奈倉道明<sup>1</sup>、吉田達彦<sup>1</sup>、内田美恵子<sup>1</sup>、宇藤裕子<sup>5</sup>、

- 1) 埼玉医科大学総合医療センター
- 2) 大阪大学小児科
- 3) 東京女子医科大学周産期母子医療センター
- 4) 長野県立こども病院
- 5) 大阪府立母子保健総合医療センター

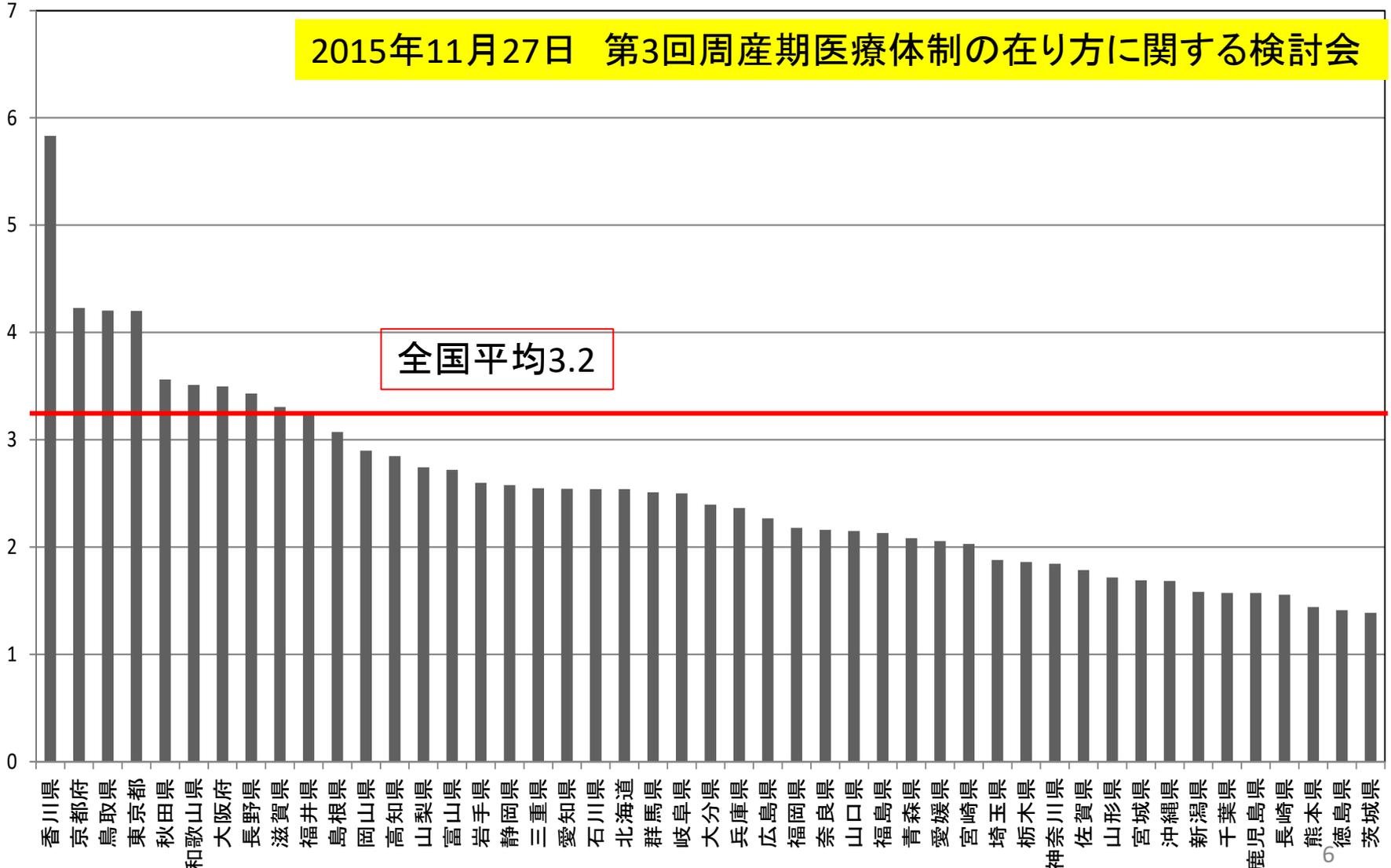
# 都道府県別の千出生あたりの新生児医師数

- 出生数あたりの新生児科医数は地域差が大きい。
- 最小である茨城県と最大である香川県の間には**4倍の格差**がある。

2015年11月27日 第3回周産期医療体制の在り方に関する検討会

新生児科医数/1000出生数

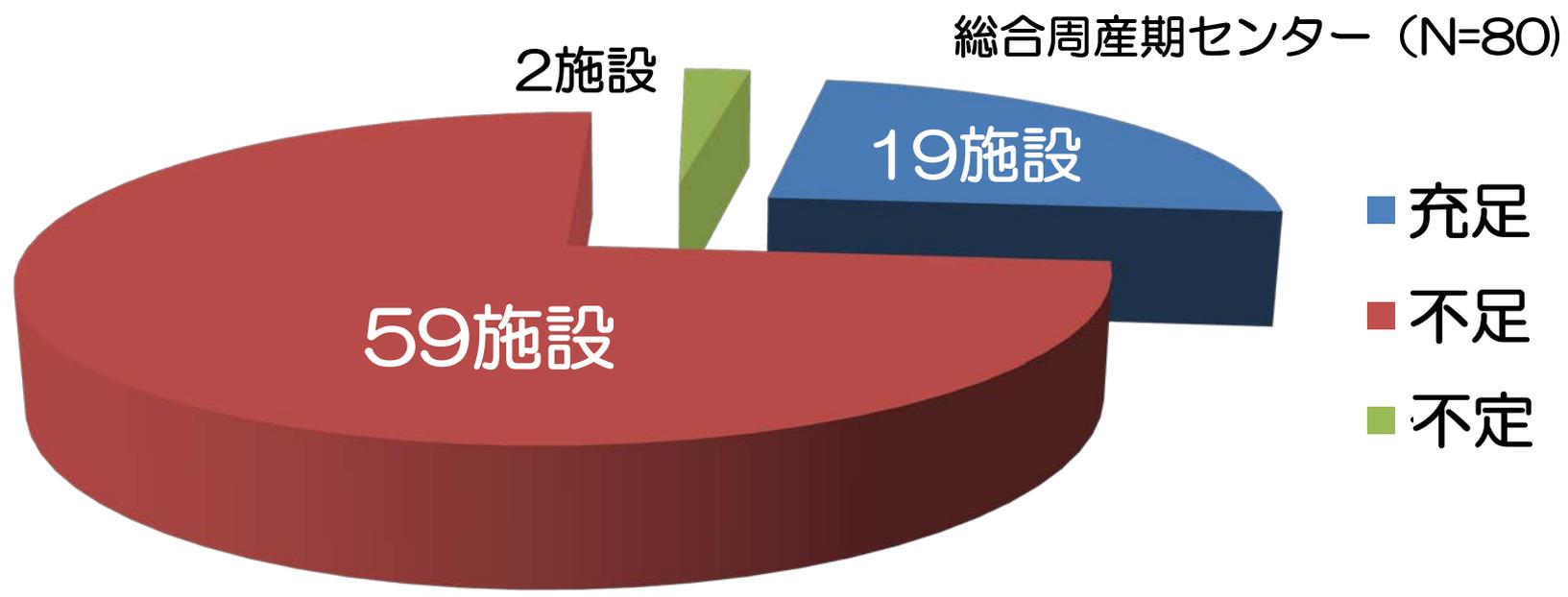
全国平均3.2





# 総合周産期医療センターとしての仕事量に対し、NICUの 医師数は足りているか

総合周産期センター施設長見解



# 医師の充足ができない理由

---

## ● ポストがない

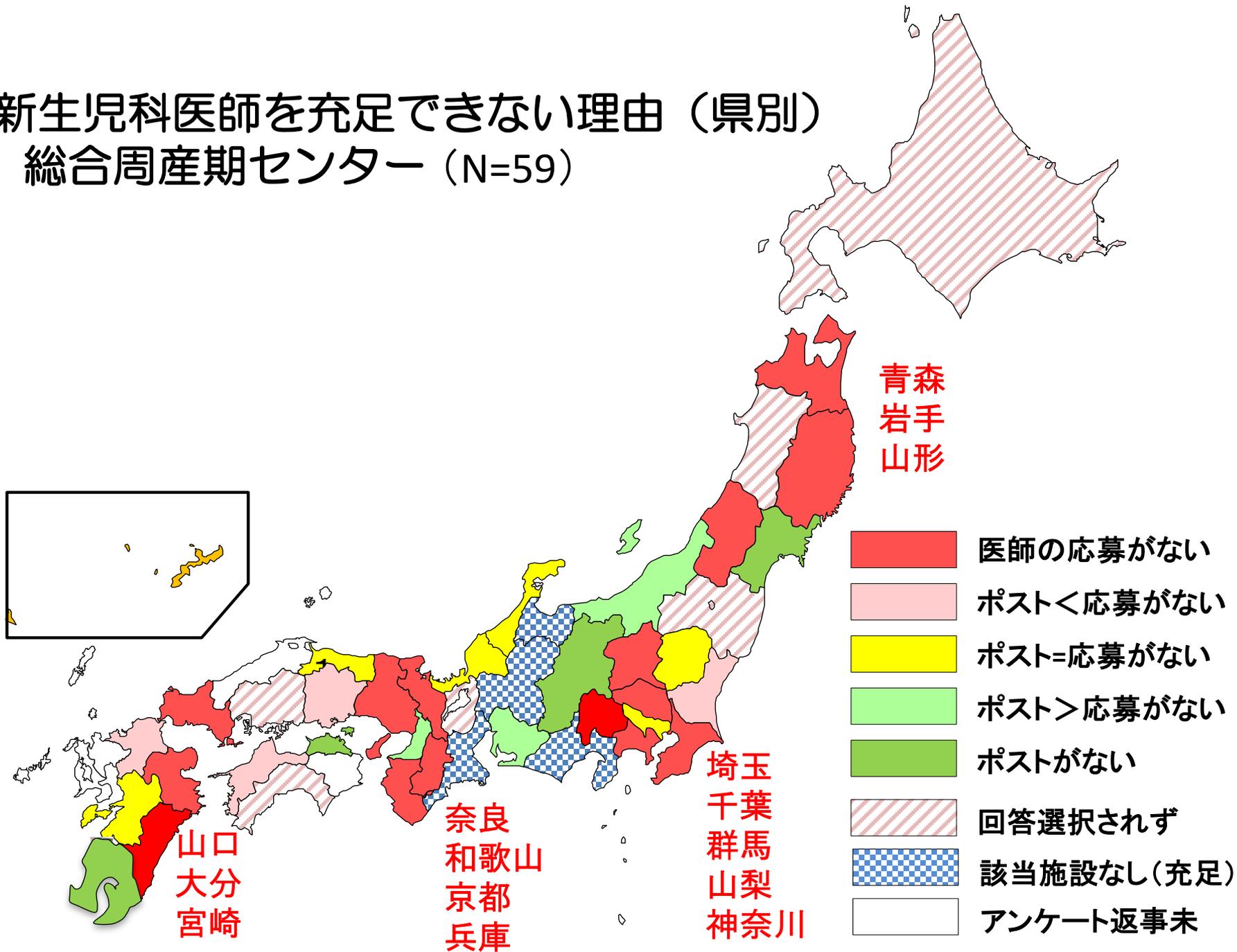
- ポストがない
  - ポストはあり応募があるが、施設の採用条件が厳しい
  - 産休・育児休暇中の医師のポストを弾力的に活用出来ない
  - その他の休職中のポストを弾力的に活用出来ない
- 

## ● 応募する医師がいない

- ポストはあるが、勤務が厳しくて応募者がいない
-

# 新生児科医師を充足できない理由（県別）

## 総合周産期センター（N=59）



1施設あたり	NICU ベッド数	入院 総数	<1500g	<1000g	常勤 医師数 <small>研修医は除く</small>	非常勤 医師数	希望 常勤医師数
医師・充足 (N=19)	14.2	313.3	50.8	23.3	9.2	0.4	
医師・不足 (N=59)	13.9	264.4	43.8	20.5	6.9	1.6	9.2

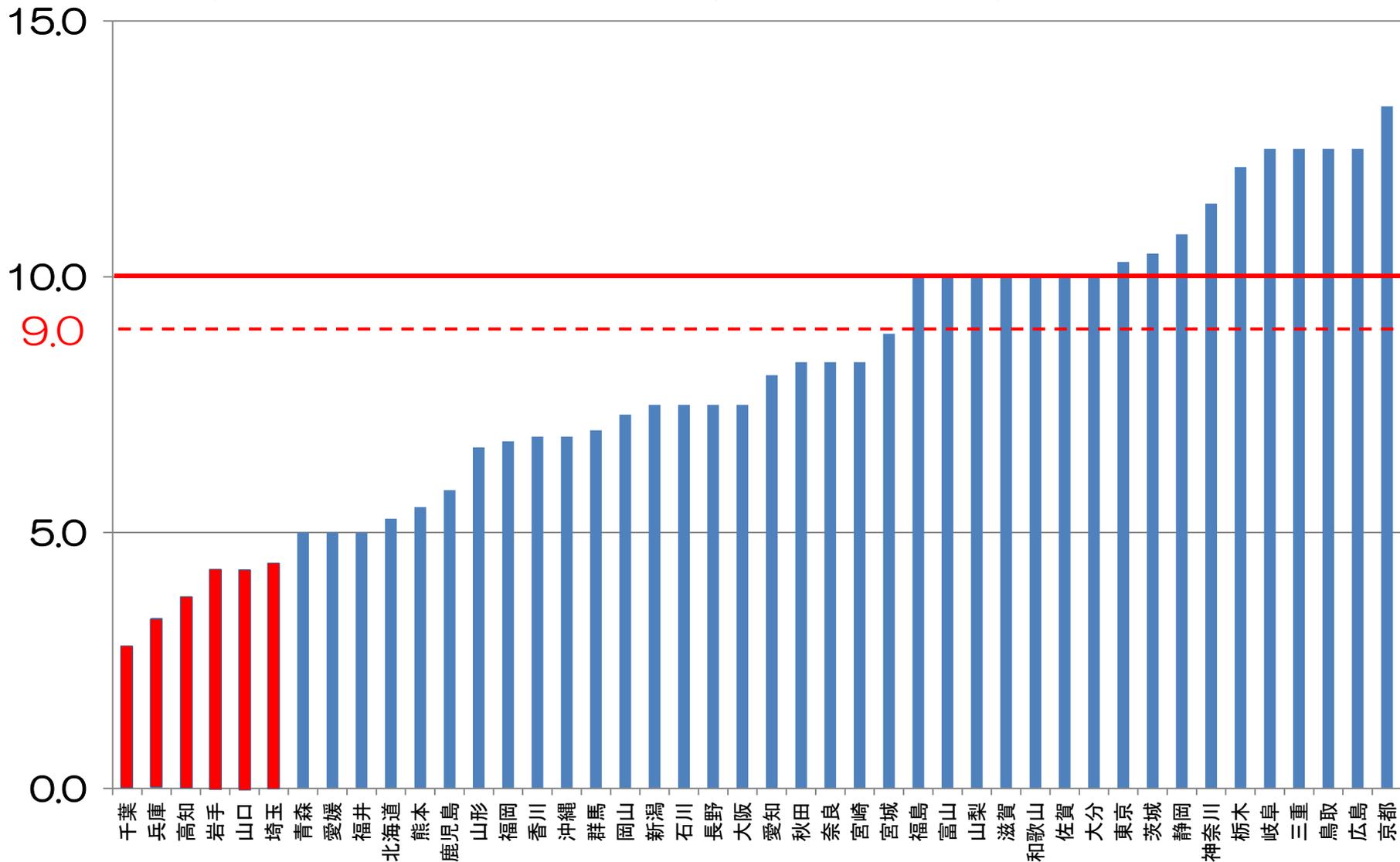
	医師・充足 (N=19)	医師・不足 (N=59)
常勤医1名あたりの NICUベッド数	2.0	2.0
<1500g担当数	5.5	6.3

● 充足していると回答した施設も不足していると回答した施設もNICU病室数はほぼ同じ

充足している施設の常勤医師数=9.2=医師不足の施設の希望常勤医数

NICU15床あたり10名の常勤医、+研修医が妥当か？

# NICU15床あたり常勤医師数（都道府県別） 総合周産期センター（回答80施設）





# 調査まとめ

- 全国総合周産期母子医療センター施設長への人材育成アンケートから、24時間体制下安定したベッドコントロール、安全体制、専門医養成研修面から、NICUベッド数15床あたり、新生児専門医医師数として10名以上（+研修医）が必要である。
- NICUに必要な医師（新生児専門医）数確保が難しい県でも、医師のポストがあっても応募者がいない以下の都道府県が極めて厳しい  
青森、岩手、山形、千葉、埼玉、群馬、神奈川、山梨、奈良、和歌山、京都、兵庫、山口、大分、宮崎
- NICU 15床あたり新生児専門医10名以上必要だが、岩手、千葉、埼玉、兵庫、高知、山口は、その半数にも満たない。

# 新生児常勤医の必要数(案)

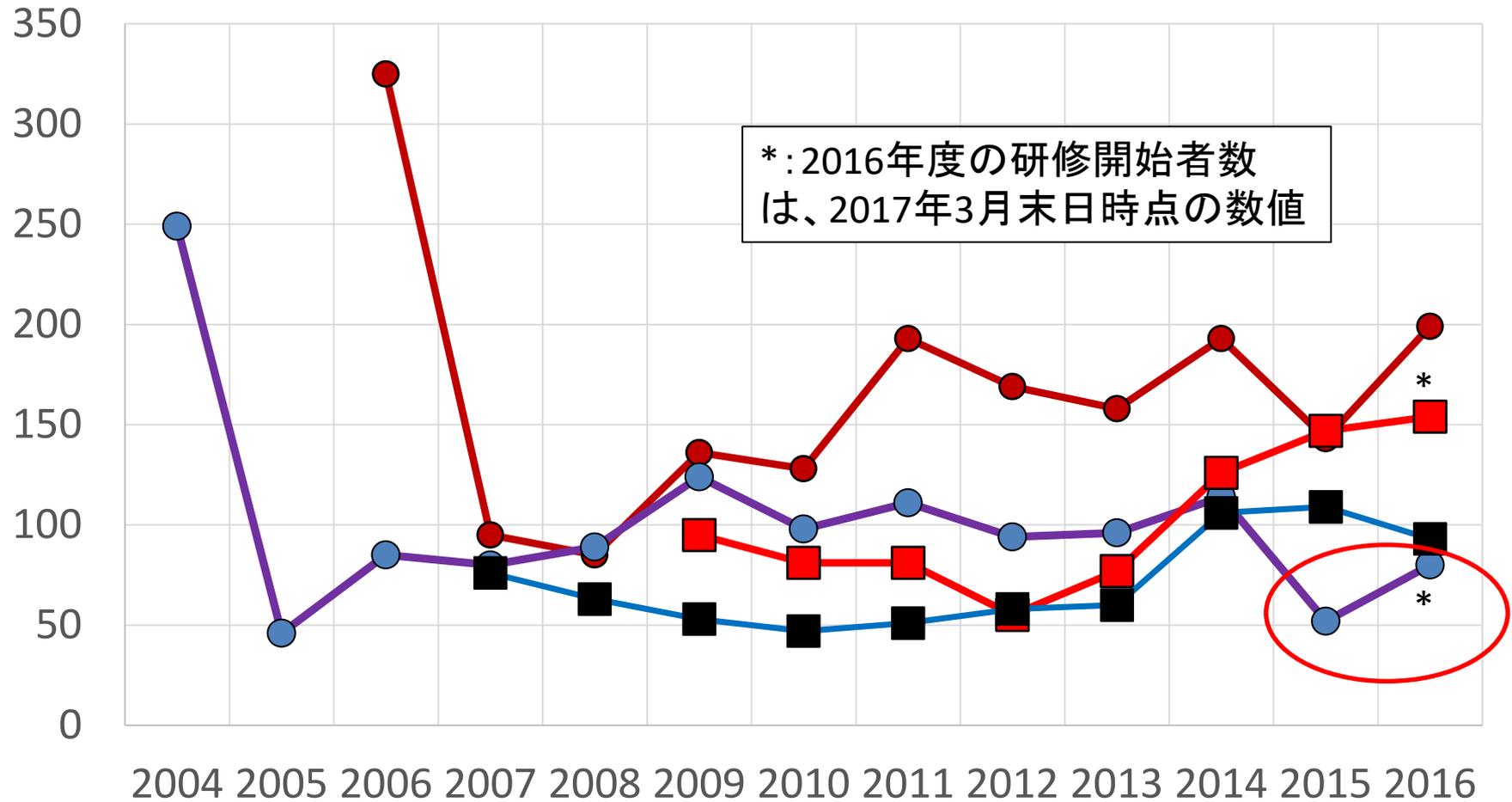
- 総合周産期センターに10名
  - 地域周産期センターに3~5名と仮定すると、
- 総合104施設 地域292施設に対し、
- 最大  $104 \times 10 + 292 \times 5 = 2500$ 名
- 最少  $104 \times 10 + 292 \times 3 = 1916$ 名



現在B領域会員  
3041名

# 周産期専門医制度

## 年度別研修開始者数・専門医合格者数推移



● 母体・胎児研修開始者数

● 新生児研修開始者数

■ 母体・胎児専門医試験合格者数

■ 新生児専門医試験合格者数

# 周産期（新生児）専門医の必要数

- 総合周産期センターに3～5名
- 地域周産期センターに1～2名と仮定すると、

総合104施設 地域292施設に対し、

最大  $104 \times 5 + 292 \times 2 = 1002$ 名

最少  $104 \times 3 + 292 \times 1 = 604$ 名



現在  
705名

# 本日の内容

- 産婦人科と小児科
- 新生児医療提供体制の歴史
- 最大の課題 医師の不足
- 今後に向けて

# 日本新生児成育医学会の取り組み

- 夏の2泊3日教育セミナー- 本年で、21回目
- 対象：新生児医療に2年以上従事してきた医師。
- 平成25年より、1泊2日の医学生・研修医向けセミナー開始。

**参加者募集 50名** (定員) 神戸にて開催

**4th 医学生・研修医向け NICU 入門セミナー**

若手とベテランの先輩が、つとめて「新生児科医」について幅広くレクチャーします。明日からすぐに役立つ新生児科療法 (NICPR) のコース、個別も実践も学べます！

**プログラム詳細**

- プロモーションビデオで見る新生児医療の現状は「ようこそ新生児科医の世界へ」
- 最新出版の書籍～読者は読けるのだから、それとも読めるのか～
- フォローアップ～みんな元気でおおきく～
- 赤ちゃんの成長をどう見るのか～
- ～臨床医研究者からのメッセージ～
- NICU 見学会 (白鳥記念病院)
- グループ研修
  - ・若手教授が教える大学附属への道
  - ・新生児科医を目指して、どこで働き、何をする
  - ・新生児科医の仕事とプライベート
  - ・出産・育児してもキャリアアップ！
  - ・研修医から始める留学準備
  - ・本当に新生児を惹んで大丈夫？
- NICPR 3コース講習会 (2025年開催)

**日時** 平成 29 年 5 月 20 日 (土) 午後から 5 月 21 日 (日) 午前までの 1 泊 2 日

**会場** ニチイ学館 神戸ポートアイランドセンター

**対象** 医学生、初期研修医、後期研修医 第 1～3 回の本セミナー受講者の再参加も OK (年額不問)

**参加費無料** (定員 50 名に達した時点でキャンセル待ちとなります。お早めにご応募ください。)

**申込方法** 学会ホームページで受け付けています！ <http://jsnhd.or.jp/young/seminarprogram.html>

お問い合わせ・連絡先：一般社団法人日本新生児成育医学会 事務局  
TEL: 06-6398-5625 FAX: 06-6398-5617 E-mail: jsnhd@jsnhd.or.jp

主催：一般社団法人日本新生児成育医学会教育委員会・後援：公益社団法人日本小児科学会

# 日本新生児成育医学会の取り組み

➤ 診療委員会の調査 委員長 与田仁志

新生児科医師の勤務状況と医師育成・供給  
に関する調査 準備中

# 日本周産期・新生児医学会の取り組み

- B領域（新生児）の入会者自体は、減少傾向にはないが、研修開始届数が減少傾向にある。原因を解明し、対策を立てるための調査を計画中。
- 本年の学術集会にて、新生児科医の確保に関するシンポジウムを開催予定。

# 日本小児科学会・日本産科婦人科学会 合同委員会の取り組み

- 本年より両学会理事会承認のもとで発足
  - 小児科学会 新生児委員会委員
  - 産科婦人科学会 周産期委員会委員
- 「新生児医療体制確保のためのグランドデザイン」を策定し、関連学会とともに提言をまとめていくことを目指す。

# Take Home Message

- 新生児医を確保していくには、増加傾向の小児科専攻医からのリクルートが肝要。
- 各地域の将来の人口動態によって、必要な医師数・医療提供体制を検討する必要がある。
- 周産期（新生児）専門医
  - 増加しない原因とその対策を検討していく。

## 謝辞

貴重な発表の機会をいただきました  
拡大医療改革委員会の皆様  
座長の南先生、前田先生に  
厚く御礼申し上げます。

今後も日本産科婦人科学会の皆様からの  
ご支援が必要です！！  
どうぞよろしくお願いいたします。

ご清聴ありがとうございました。